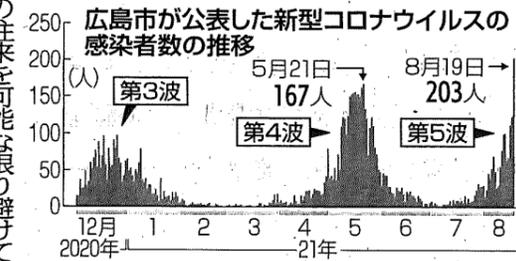


広島市感染急増203人

県内362人 知事、医療に危機感

広島市は19日、203人が新型コロナウイルスに感染したと発表した。これまで最多だった5月21日（167人）を大きく超え、初めて200人台に到達。松井一実市長は市民に、感染防止策を徹底するよう訴えた。広島県全体は362人となり、2日続けて最多を更新。湯崎英彦知事は「東京や沖縄の感染レベルまで拡大する恐れがあり、毎日千人以上の患者が出かねない」と踏み込み、警戒を強めた。3・28面に関連記事。

（余村泰樹、長久豪佑）



広島市の203人は、1器が必要な重い症状になるケースがあるという。松井市長は記者会見で、週間の新規感染者数（人口10万人当たり）は64・8人で、感染状況が最も深刻な「ステージ4」（爆発的感染拡大）の指標（25人）を11日連続で上回っている。高齢者でなくても人工呼吸

デルタ株猛威 各国苦悩

感染力2倍 接種拡大がカギ

デルタ株は、日本でも専門家らの想定を超える速度で拡大している。国立感染症研究所の推計によると、関東地方で新規感染者に占めるデルタ株の割合は6月末時点で3割だったが、7月中旬には7割になった。デルタ株は、従来株に比べて感染力が約2倍と推定されている。だが複数の米メディアは「この数日、米国内でデルタ株が多数を占めたクラスター（感染集団）の調査では、接種完了者と未接種者で、体内のウイルス量が同等と判明。C

知事は緊急に記者会見し「このままでは病院やホテルでの療養も困難になる。県内の全ホテルを使っても

物理的に受け入れられなくなる」と、医療崩壊への危機感を表明した。20日からは県にまん延防止等重点措置が初めて適用され、対象区域の9市3町の飲食店では酒の提供が停止となる。湯崎知事は特に20日からの10日間で、同居家族以外と食事をしない▽買い物は3日に1度、まじめ買いをする▽職場では昼食を一人で食べる一など8項目の対策を取るよう県民へ協力を呼び掛けた。中国地方のほかの4県の19日の確認数は、山口が2日続けて最多を更新する119人▽岡山が過去2番目の254人▽島根が28人▽鳥取が14人。5県の合計では777人となり、これまで最多だった18日の768人をさらに上回った。



米、来月から3回目接種

【ワシントン＝船越翔】米政府は18日、新型コロナウイルスの2回接種を完了した人に、9月20日から3回目となる追加接種を始めること発表した。医療従事者から優先的に始める方針だ。国内の接種完了者を調べた研究で、ファイザー製とモデルナ製は、いずれも時間がたつとワクチンの有効性が低くなったことが確認されたことを受けた措置。米政府は効果の維持に向けて追加接種が必要だと判断した。バイデン大統領は18日の演説で「追加接種は免疫反応を高める。出現する可能性のある新たな変異ウイルスから身を守るのに最良の方法だ」と強調した。

製とモデルナ製の3回目の接種を既に認めており、接種の対象を近く18歳以上の成人に拡大する見込みだ。1回接種タイプはジョンソン・エンド・ジョンソン（J&J）製についても追加接種の必要性を検討している。追加接種は、イスラエルやハンガリーなどで先行実施されている。米食品医薬品局（FDA）は臓器移植で免疫力が低下し、英国やドイツ、フランスは9月から実施する。

デルタ株の特徴

項目	特徴
感染力	約2倍とされる
重症化しやすさ	高い可能性あり
ワクチンの効果	感染予防：有効だが下がる恐れ 発症予防：有効だが下がる恐れ 重症予防：ほぼ同等に防ぐ

※国立感染症研究所などの資料に基づく

R3. 8. 21
花園保育園

8月園だより コロナ感染症特集22

感染者の9割59歳以下

新型コロナウイルスの流行の「第5波」で新規感染者数が過去最多を更新した広島市は19日、感染者の分析結果を公表した。ワクチン接種が進んでいない59歳以下が急増し、7月以降の感染者の約9割を占めた一方、ワクチン接種が先行して進んだ高齢者の感染は大幅に減っている。家庭内感染が増え、市は若年層へのワクチン接種を急ぐ11面関連。

（余村泰樹）

広島市の新型コロナウイルス感染者の年代別割合

年齢	6月1日~30日	7月1日~8月17日
19歳以下	10%	16%
20代	13%	27%
30代	11%	17%
40代	17%	17%
50代	14%	14%
60代	13%	7%
70代以上	22%	3%

※小数第1位を四捨五入し合計は100%にならない

市によると、7月1日より8月17日に確認された感染者1268人を年代別にみると、20代が27%を占めたほか、40代と30代が各17%、19歳以下が16%と続き、59歳以下の割合は90%以上だった。60歳以上の割合は65%だった6月と比べ、25%上昇している。一方、60歳以上の割合は6月には35%だったが、7月以降では10%に激減した。市はワクチン接種の効果とみている。ワクチン接種は高齢者を優先して進めており、今月18日時点で65歳以上の接種率は1回目が84%、2回目が80%に達する。半面、7月初旬から接種が始まった

自宅療養で早産 新生児死亡

異変時の入院事前調整必要

新型コロナウイルスに感染した妊婦について、厚生労働省は「入院勧告」の対象としている。妊娠後期（28週以降）に感染すると、早産率や重症化リスクが高まるとの報告があるからだ。だが、第3波の感染拡大を受け、同省は今年2月、病床が逼迫している地域で

は、医師が入院の必要がないと判断した場合は「宿泊施設や自宅での療養も差し支えない」との見解を都道府県などに示していた。ただ、腹部のはりなど妊婦特有の症状があれば、感染症と産婦人科の医療機関での対応が必要になり、出産は帝王切開もやむを得ない

り、呼吸状態が悪化したりした場合に備えて周産期母子医療センターなど専門の医療機関への入院対象となるが、産科管理が不要で軽症の場合は自宅療養などの対応とし、容体急変時は保健所や県が入院先を調整する仕組みだった。

新型コロナウイルス変異株デルタ株による感染拡大で、新たに京都、兵庫など7府県で20日、緊急事態宣言が始まりました。国内新規感染者は2万5876人で、3日連続して過去最多を更新、自宅療養中の死者も相次ぐなど医療崩壊の恐れが出ています。政府は同日入院病床の確保強化に乗り出しましたが、感染力の強いデルタ株が猛威を振るい、重症者数は19日時点で1816人と8日連続で最多を更新、全国で感染者9万6700人に達しています。（こ）